

市川市立図書館のメールマガジンをお送りいたします。

「メールでのサービス」で配信をご希望された方へお送りしています。

□ ■ □ -----
■ □ ■ 市川市立図書館メールマガジン 第 147 号 2018.5.20
□ ■ □ -----

初夏のまばゆい日差しを浴びて、庭先に美しいバラの花が咲いているのを時折見かけます。

市川市の「市民の花」はバラ。

市川市とバラの歴史は、戦後間もない頃、国府台にある式場病院でバラ園が作られたことが始まりです。

ちなみに、「市の木」はクロマツ、「市民の鳥」はウグイス、「市民の昆虫」はスズムシです。

■ ■ 図書館からのお知らせ □ -----

◆住基カードに図書館利用券機能を付加されている方は有効期限をご確認ください！

○住民基本台帳カード（以下、「住基カード」）は、発行から 10 年の有効期間を過ぎると、住民票や各種証明書の発行、図書館での本・CD・ビデオ・DVD の貸出など、住基カードを利用した機能・サービスが受けられなくなります。

○住基カードの有効期間が過ぎる前に図書館利用券をお作りください。

○お近くの図書館（中央・行徳・南行徳・信篤・平田・市川駅南口）の窓口で図書館利用券の申請手続きをお願いいたします。

○図書館利用券申請の際には、住所・氏名を確認できるもの（健康保険証・免許証・学生証など）をご用意ください。

○マイナンバーカード（個人番号カード）には図書館利用券機能を付加することはできません。

◆「人権擁護委員の日」にあわせて中央図書館でミニ展示を行っています！

毎年 6 月 1 日は「人権擁護委員の日」です。これにちなみ、中央図書館では人権問題（L G B T やいじめ、虐待等）に関連する本を集めました。人権について考えるよい機会となればと思います。

また、市川市男女共同参画センター（ウィズ）では、5月27日（日）に、特設人権相談と、人権啓発DVD上映会が行われます。相談・上映会についてのお問い合わせは男女共同参画センター（047-322-6700）まで。

○こんな本を展示しています。

◇『ピース・ウーマン：ノーベル平和賞を受賞した12人の女性たち』アンゲリーカ・U.ロイッター／著，アンネ・リュッファー／著，松野泰子／訳，上浦倫人／訳（英治出版 2009）

マザー・テレサやアウンサンスーチーをはじめ、ノーベル平和賞を受賞した12人の女性たちが強い想いと理想を胸に、人権問題に立ち向かっていった姿が書かれています。

彼女たちを衝き動かしたものの、彼女たちが獲得したものとは何だったのでしょうか。受賞講演の内容も一部収録されています。

■ ■ テーマ展示 □

◆ 「未来への扉」（中央図書館／5～6月）

明日、10年後、100年後……。

未来は、どのような世界になっているのでしょうか？

iPS細胞や3Dプリンターのように実用に近い技術もありますが、宇宙旅行のように実現に向けて進む分野がある一方で、環境や人口問題など未解決の世界的な課題も残されています。

今回の展示では「未来」をテーマに、自然科学や科学技術の予測について、また、社会的に解決すべき問題や、未来が舞台の小説など様々な資料を集めました。

私たちが今、未来のためにできることを考える良い機会になるのではないのでしょうか。

未来の世界を想像してみませんか？

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/info/1215-2018.html>

○展示の本からいくつかご紹介します。

◇『2050年の技術：英『エコノミスト』誌は予測する』 英『エコノミスト』編集部／著，土方奈美／訳（文藝春秋 2017）

『エコノミスト』誌編集部記者と科学者、起業家、研究者、SF作家などの外部執筆者が、AI、バイオテクノロジー・農業、医療、エネルギーなどの分野について予測した本です。技術の変化が社会や経済へ与える影

響を、我々の選択次第という条件付きながら楽観的な姿勢で描いています。構成は第一部 制約と可能性、第二部 産業と生活、第三部 社会と経済に分かれ、それぞれに6つの章があり、各章の最後のページには2ページのまとめ（要約）が付いています。

本書の姉妹編である2012年刊行の『2050年の世界』と異なり、未来予測の対象を、現代社会を形づくる大きな力である「技術」の変化に絞っていることが特徴です。

◇『ビッグヒストリー：われわれはどこから来て、どこへ行くのか、宇宙開闢から138億年の「人間」史』デヴィッド・クリスチャン／ほか著，長沼毅／日本語版監修，石井克弥／ほか訳（明石書店 2016）

本書は自然科学と人文科学が結合した全宇宙史「ビッグヒストリー」のテキストです。

138億年前のビッグバンから未来にわたる長大な時間の中に「人間」の歴史を位置づけ、「8つのスレッシュホールド」（物事が複雑化する跳躍点・新しい段階への入口）を軸に記述されています。

400ページ超・大きさ28cmの本書のうち、未来についての記述は最後の13章になりますが、人間の行く末を、巨視的なスケールでの俯瞰的な見方ができます。

◇『恋するコンピュータ』黒川伊保子／著（筑摩書房 2008）

本書は筑摩書房1998年刊の文庫版です。コンピュータの分野は日進月歩の勢いで技術が進んでいますが、本書の内容はまだITという言葉が一般的でなかった時代が背景にあります。

著者は人工知能の研究をしており、その研究において大切な事とは、人間の知能のメカニズムを知ることです。本書の中で彼女は、ロボットにはない人間のメカニズムの素晴らしさを、息子さんの成長のエピソードを交えて言語学、脳科学などの視点から考察し、優しい文章で綴っています。

.....
◇メールマガジンの登録・解除はこちら

<https://opac.city.ichikawa.chiba.jp/winj/opac/top.do>

◇このメールは自動配信されています。このアドレスに返信しないで

も内容の確認およびご返答ができません。ご了承ください。

市川市中央図書館

〒272-0015 千葉県市川市鬼高 1-1-4 047-320-3346
